

## 廃棄物処理(5) (2-G-13-4~2-G-15-1)

本セッションでは、汚泥・廃棄物処理のレビュー講演に引き続き、食品廃棄物、廃油、家畜排泄物、生ごみ等のバイオマスの処理処分法に関する発表6件が行われた。2-G-14-1 は下水からの水素発酵システムの開発で、*Clostridium thermosaccharolyticum* を優占化させることが重要なことを明らかにしたものである。2-G-14-2 はしょうちゅう蒸留粕がロンドン条約で海洋投棄禁止になることを踏まえ、*Aspergillus oryzae* を投入し回転円板法を活用することの有用性をみたもので、固液分離能が高まり、上澄水の浄化能も高いという実用システム開発につながるものである。2-G-14-3 は廃油分解に対し、コンソシウム系の *Acinetobacter* 属、*Bacillus* 属等からなる微生物群を活用して処理の高度化を図るものであり、セラミック担体を導入することで効果的な処理のできることを明らかにしたものである。2-G-14-4 は家畜排泄物の発生構造とコンポスト化利用の地域特性を踏まえた解析を行ったものであり、地域によってコンポストの受け入れ余裕度の異なることを明らかにしたものである。2-G-15-1 は家畜排泄物の適正処理のための畜舎汚水処理施設の水質基準にのっとった処理システムの性能調査を行ったものであり、膜分離活性汚泥法等の高度処理方式を採用することで、安定した処理性能の得られることを明らかにしたものである。2-G-15-3、2-G-15-4 はディスポーザを下水道へ導入した場合の負荷量原単位および下水道管渠に及ぼす影響を解析評価したものであり、今後のディスポーザの活用のあり方についての基盤となるものである。2-G-16-1 は一般家庭、レストラン等から排出される含水率の高い生ごみを、下水の放流する以前に可溶化・生物処理システムで負荷を増大させないことを前提に技術開発を進めたもので、可溶化槽内の担体として籾殻の有効性を明らかにしたものである。

以上の如く、本セッションにおいては 21 世紀の重要な課題である環境低負荷資源循環社会創りを目途としたバイオマスの処理処分のあり方について意見交換でき大きな意義を有するものであった。

(国立環境研究所 稲森 悠平)